# 成人咽後膿瘍の２症例

中村健大　壺坂俊仁　小柏靖直
杏林大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科

咽後膿瘍は縦隔炎・縦隔膿瘍を合併しやすく，縦隔膿瘍を合併した場合，死亡率は約40％とされ予後不良である．今回我々は咽後膿瘍から縦隔炎を合併した１症例と咽後膿瘍の１症例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する．

１症例目は47歳男性．嚥下時痛を主訴に某総合病院耳鼻科を呼吸困難で受診．咽後膿瘍の疑いで当院へ救急搬送となる．頸部CTで咽頭後壁の腫脹を認め，同日気管切開術と咽頭後壁の切開術を施行したが排膿は認めなかった．３日後頸部CTで咽頭後壁及び顎下部に膿瘍形成を認め，頚部・咽後膿瘍排膿術施行した．さらに縦隔炎を合併し，５日目に開胸ドレナージ術を施行した．その後懸命な治療をするも敗血症，DIC，腎不全，心不全を併発し救命しえなかった．

２例目は35歳男性．嚥下時痛主訴に某総合病院耳鼻科受診し，咽後膿瘍の疑いで当院へ救急搬送となる．同日気管切開術及び咽後膿瘍排膿術を施行した．術後陰圧性の急性肺水腫を合併し，さらに急性腎不全，DICを併発したが，術後14日目に軽快退院となる．

２症例ともにコントロール不良の糖尿病を合併しており，それが重症化した原因と考えられた．高齢化社会・糖尿病人口の増加を考えると，今後類似の症例が増えることが予想され，咽後膿瘍の診断・治療には早期の画像検査ならびに迅速な外科的処置が重要であると考える．